

# ♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2018年4月～5月前半♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718

春爛漫♪服装も心も軽くなる春がやって参りました！この春も、おでかけが楽しみになるような公演をとりそろえてみなさまのお越しをお待ちしています！

【文責：宗次ホール広報担当 松野尚子】

## アルペジオーネ・ソナタを、アルペジオーネで聴ける！ クリストフ・コワンと仲間たち

4/21(土)18:00開演 4,000円(学生2,400円) [指定]



シューベルトの傑作「アルペジオーネ（アルペジオーネ）・ソナタ」によって、アルペジオーネという言葉をご存知の方は多いと思いますが、楽器の名前だということを知らない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。アルペジオーネは、シューベルトがこの曲を作曲した前年にウィーンで生まれたチェロとギターをあわ

せたような楽器です。しかし、すぐにすたれてしまったため現在では「幻の楽器」と言われています。演奏してくださるクリストフ・コワンさんは、埋もれてしまった楽器や、作曲家、作品の発掘と研究における世界的権威です。当日は、コワンさんが、世界に数台しかないオリジナルのアルペジオーネのうちの一台、ご自身の楽器を日本にお持ちくださり演奏されます！復元ではないオリジナルのアルペジオーネは「日本初上陸」といいますから、歴史的な出来事です。現代ではチェロとヴィオラの重要なレパートリーのひとつとして有名な名曲アルペジオーネ・ソナタを「シューベルトが聴いた音」で聴ける大変貴重な機会です！ぜひ聴きにいらしてください。

実は、この公演のおすすめポイントは、アルペジオーネだけではありません。18世紀後半は、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトなど、音楽史に燦然と輝く時代ですが、彼らの歴史を表す音楽史だとすれば、裏の音楽史ともいえる彼らのライバルや先生にあたる方々が生み出した隠れた名曲の数々を、コワンさんが貴重なレパートリーよりご紹介して下さります。日本初演の曲もあります。

共演はフランスを中心に活躍するピアニストでありフォルテピアノ奏者である金子陽子さん（今回はピアノフォルテを演奏）と欧州で活躍するマリア＝テクラ・アンドレオッティさん（フラウト・トラヴェルソ←現代のフルートの前身となる楽器）。18世紀後半のウィーンにタイムトラベル！

## 古楽界の最後の大物が初来日！ ロバート・ヒル チェンバロ

5/5(土祝)14:00開演 4,000円(学生2,400円) [指定]

巨匠レオンバルトの薫陶を受けた大物チェンバリストの遅すぎた初来日です。ヒルさんのチェンバロの演奏を聴くと、その表現豊かな音楽に驚きます。チェンバロの演奏はときとして単調に感じられることもありますが、ヒルさんの演奏は万華鏡のようです。

チェンバロは構造上、タッチでは音の強弱をつけることができません。ですから、アーティキュレーション（それぞれの音の結びつけ方や区切り方）やアゴーギク（テンポを速くしたり遅くしたりと微妙に揺らして、音の表情や動きに変化をつける技法）を駆使して、あたかも強弱があるかのように、変化をつけて演奏します。ヒルさんの演奏は、この点では随一の名手と言ってよいでしょう。

また、ハーバード大学の博士号をバッチリ研究で取得し、25年以上上フライブルク音楽大学で教授を務めるなど、研究者としての世界的権威でもあるヒルさん。にもかかわらず時には楽譜をそのまま演奏するだけでなく、自身の創作を交えファンタジーにあふれた演奏を展開することでも有名です。聞くところによると、ヒルさんの持ち味は「チェンバロの機能を使い尽くす」こと。2段の鍵盤の違い、「レジスター」や「ストップ」と呼ばれる音色を変える装置を使い、これがチェンバロの音？という瞬間を作り出すのがヒルさんの真骨頂。独創的な装飾音を追加したり、上下の鍵盤を弾き分けたりと、手元の動きからも目が離せません。



世界最高峰の知識とテクニックが融合したロバート・ヒルさんによる、バッチリ大作「ゴルトベルク変奏曲」。ぜひお聴きください！

## イタリアのバロック演奏家兄弟の“あうん”の呼吸 ギエルミ・アンサンブル

5/8(火)18:45開演 4,000円(学生2,400円) [指定]

古楽器によるコンサートのご案内が続きますが、もう1公演、どうしてもおすすめしたいのが、ギエルミ・アンサンブル。チェンバロとヴィオラ・ダ・ガンバ、バロック・ヴァイオリンによるアンサンブルです。

ヴィオラ・ダ・ガンバは先ほどご紹介したアルペジオーネと同様、ギターを弓で弾くような楽器ですが、アルペジオーネが「楽器職人がつくってみた！」といった感じのものであるのとは違い、歴史的な流れから発展した楽器です。スペインで生まれ、ルネサンスからバロック期にかけて、ヨーロッパ全土に広く普及し、18世紀に弦楽器の主役の座をヴァイオリン属に明け渡す前は、合奏や独奏として活躍しました。（ヴァイオリン属に対して、ヴィオール属とも呼ばれます）。ヴァイオリン属に比べて、音量や音の張りはありませんが、優しくニュアンスに富んだ穏やかな音色は、室内サロンや宮廷、教会などで演奏するのにぴったりでした（ということは、宗次ホールにもぴったり！）。

では、バロック・ヴァイオリンとはどのような楽器でしょうか？こちらはヴィオール属よりも新しいヴァイオリン属ではあるのですが、大きなコンサートホールでの演奏やコンチェルトなどへ対応するため音量や音の張りを求めて改造されていく前の状態のものです。柔らかく響く素朴な音色が、チェンバロやヴィオラ・ダ・ガンバと溶け合い、極上のアンサンブルとなります。

演奏は、兄がオルガン&チェンバロ、弟がヴィオラ・ダ・ガンバ、そしてその娘がバロック・ヴァイオリン、というイタリアの音楽一族と、3人からの信頼厚い、バッハ国際コンクールでも第2位受賞の経歴を持つコンチェルト・ケルン（ヨーロッパのバロック界を牽引するオケ）のコンサートミストレス、平崎真弓さん。4人のバロック音楽の名手が、デュオやトリオなどで、光と色彩が織りなす



↑ 天使(マレ)



↑ 悪魔(フォルクレ)

バロック音楽の世界に誘います。

曲目は、バッハのヴィオラ・ダ・ガンバとチェンバロのためのソナタのほか、コレリ、ヴィヴァルディのバロックの名曲や、フランスの太陽王ルイ14世の宮廷で活躍し、フランスのヴァイオリン界のヴィルトゥオーゾの双壁と呼ばれたマラン・マレ(左)とフォルクレ(右)の作品も聴き所。マレの演奏は優雅で艶やかな音色から「天使のヴィオール」とよばれ、かたやフォルクレの演奏は、その気性の激しさや快活で荒々しい音色から「悪魔のヴィオール」と呼ばれました。天使と悪魔?ぜひ、ご自身の耳でお確かめ下さい♪

### 金管低音楽器の名手による異次元の演奏 外圍祥一郎&次田心平「ワーヘリ」

5/13(日)17:30開演 3,500円(学生2,100円) [指定]

吹奏楽や金管で重用されるユーフォニウム(ユーフォニウム)と、オーケストラを低音で支えるチューバ(チューバ)。大きさは違いますが、見た目も音色も似ているこのふたつの楽器による世界遺産級に貴重なデュオです。演奏もお人柄も、大きくてあたたかくて面白いおふたり。ユーフォニウムとチューバのまろやかで華やかなハーモニーにピアノが効わり、とても心地良いサウンドです。それぞれの楽器のトッププロによるとびきりのエンターテインメントをお楽しみください。ピアノは昨年に引き続き松本望さん。プログラムには松本さん作の曲も。作曲者本人によるピアノも贅沢ですね♪そして、演奏だけではなく、外圍さんと次田さんのゆる〜いトーク(まさに漫才のよう)に思わずニヤニヤしてしまう、そんな点でも大人気の公演です。管楽器に馴染みのない方にもおすすめですよ!



## 《お得なスイーツタイムコンサート特集》

¥2,000 13:30開演 自由席

プレゼントチケット(ギフト券セット購入のおまけ等)2枚で入場可能  
★チャリティーシート(指定席)AB列中央付近23席限定

4月15日(日)

マリア・カナルス・バルセロナ国際コンクール優勝  
佐藤彦大ひろお(ピアノ)

第76回日本音楽コンクール(2007年)優勝、日本国内で行われる最高難度の国際コンクールである第4回仙台国際音楽コンクール(2010年)第3位、そして、スペインで行われるマリア・カナルス・バルセロナ国際コンクール(2016年)優勝など、輝かしいコンクール歴の佐藤さん。ベルリン・モスクワでの5年間に及ぶ研鑽の後、昨年帰国し、国内外で40回もの公演を、違うプログラムで行ったそう。自分の力で今後を切り拓くために、常に一步先の目標を持つように心がけていらっしゃるそうです。「ピアニストは孤独」といい、自分に容赦しない心の強さを身に着けたい、とのこと。またあるインタビューでは音楽家を目指す若い人たちに一言、という質問(佐藤さん自身も十分若いのですが!)に、「感謝を忘れずに、育ててくれた親のことも忘れずに」と語っていらっしゃるところからも、絶対いい人!と思ってしまう。今後が楽しみな若手を、宗次ホールでいち早くお聴きください。

4月20日(金)

難関として有名、ブゾニ国際コンクールの覇者!  
ミハイル・リフィッツ(ピアノ)

1949年からの歴史を持ち、イェルク・デームス、ブレンデル、マルタ・アルゲリッチなど数々の有名ピアニストを輩出したブゾニ国際ピアノコンクールは、これまで開催された回のうち約半数が「第1位無し」という厳しい審査でも知られています。このコンクールで2009年に優勝したリフィッツさんは、その他6つもの国際コンクールで優勝した、ドイツを拠点に活躍する実力派ピアニスト。

出身は中央アジアのウズベキスタン。幼少のころから頭角をあらわし、13歳の時、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番でデビューしたというからびっくり。大手名門レーベル「デッカ」と録音契約を結んだことでも話題に。Youtubeでもその牙えわたるカリスマぶりが伝わる動画がいくつか見られますからぜひ **Michael Lifits** で検索してみてください。すでにヨーロッパでは公演料が上がってきていますので、スイーツタイムコンサートでご紹介できるのは今回限りの可能性大。今回はアジアツアーの予定の変更で、たまたま滞在期間が延びたために、来演が実現することになりました。日本ではまだ知名度は高くありませんが、気が付いたら超一流になっていた…。ということもあるかもしれません。有名になる前の今が「聴き時」ですよ!



●記載公演いずれもチケットございます!●

チケットのご予約・お問い合わせは  
宗次ホールチケットセンターへ

☎052-265-1718 (営業時間10:00~16:00)